

# 祖父の免許返却を通して

愛媛大学教育学部附属中学校

二年 仙波 乃阿

私には、今では八十代の祖父がいる。

祖父は、車やドライブが大好きで愛車の手入れをよくしていた。

私も、お手伝いをするのが楽しみだった。

時は六年前。

私が小学生になったばかりの頃の事である。家族でニュース番組を見ていた。

その内容は、「高れい者の危険運転」をテーマにし、交通安全を広く呼び掛けるものだった。

その中でも、特に家族をハッとさせたのは、高れい者ドライバーが小さな子供を事故にあわせてしまっているという現実だ。

ドライバーから見て背の低い子供は見えにく

かったり、子供がとる予期せぬ行動に対応できない事が主な原因だという。

また、急な飛び出しがあつた時、驚き、対応が遅れてしまう。

とつさに、アクセルとブレーキをふみ間違え、結果、大惨事を引き起こしてしまうのだ。

そこで、家族は、祖父の免許返納をうながす行動に出る事にした。

母も、そろそろ運転をやめさせたいと考えていたようだ。

あれほど車好きの祖父が素直に言う事を聞いてくれるのだろうかという思いもあつたが、みんな、車で出かけている祖父の帰宅を待った。

これまでも、何度か返納の話を母がしていたが、祖父が「うん。」とは言わなかつたのだ。

当時小学一年生の私は、待っている間に、お絵描き帳と色鉛筆を使って書類を作成した。

免許返納を祖父が承だくした事を記す、サイン書である。

一生懸命書いて、自分のリュックサックに隠しておいた。そうしていると、祖父が帰ってきた。

みんないつも通り「おかえり。」と優しく出むかえた。

その日は、遠くの友人の家に野菜を届けに行っていたらしい。

一番に祖母が口を開く。

「お父さん、話があるんやけどね。」祖父は口をぽかんと開け、驚いた様子で座った。

そろそろ運転も危ないし、免許を返したらどうかと提案するが、一切応じず、「いや、まだ乗れる。大丈夫よ。」の一点張り。

母も祖母もあきれた様子。

押し問答が続いた。

このままでは、祖父が免許返納できないと感

じた私は、隠しておいたサイン書を取り出した。

少しドキドキしたが、思いきって祖父に渡してみた。

すると、「これ、乃阿ちゃんが書いたの？」と笑顔で言ってくれた。

その後が続いて母も、今の高れい者ドライバーの現実を語った。

一つ目はやはり認知機能も低下し、判断能力もおとろえるため、運転はますます危険に、そして手の届きにくいものになるということ。

二つ目は当時小学校一年生の私と、同年れいの子供達も高れい者ドライバーの運転で、命を落としてしまう悲惨な事故が多発している事であった。

他にも、それぞれの思いを伝え、祖父の返答を待った。

すると、しばらく考え込んだ後、パッと表情

を変えて「そうやね。乃阿ちゃんみたいなお小さい子供を、もしも事故にあわせてしまったら、取り返しがつかんけんね。」と納得してくれたのだ。

私が作ったサイン書にも、サインをしてくれて本当に良かったと安心したのをよく覚えてい

る。  
私は、その後少し大きくなってから、なぜ高れい者は免許返納をかたくなに拒むのか、様々な記事やテレビ番組の情報を集め、考えてみた。

元気で若々しい高れい者は、まだまだ運転には自信があると思っ

ているのかもしれない。

これは祖父にも当てはまるだろう。  
そして、車がないと生活が不便になる場合だ。

まわりに家族が住んでおらず、長時間歩くのが困難であったり、遠い場所にしか日用品や食

材を売っているお店がないとなると当然、車なしの生活は、不便なうえ大変難しくなるだろう。

次に、病院に通っている場合だ。

一人暮らしだと、段々通院が難しくなる。

送げいしてくれる人がまわりにいないという事は、自家用車で通院するという選択をする高れい者が増えているそうだ。

やはり、若者とは違い、生活に支障をきたす事がせざるを得ない理由となっているようだ。

運転する選択肢しか残らないままで本当に良いのだろうか。

私は、高れい者ドライバーの現実を改めて知り、切実な思いを感じた。

私が、よく見ている愛媛の番組「ひめポン」で、地域の乗りあいタクシーやバスがある事を知った。

通院や買い物など、外出の際の送げいを、利

用しやすい価格で行ってくれる、何とも画期的な取り組みだ。

車内は、毎日笑顔でおしゃべりを楽しむ、こ立しやすい高れい者のコミュニケーションの場となっている。

この様に、免許返納しても、安心して生活できる仕組みこそが、とても大切なのだ。

私は、祖父の免許返納を通じ、食品の移動販売トラックや、車内診りよう等、返納後に便利な取り組みについて、よく知りよく学べたと感じている。

特別な取り組みではなく、どの地域にもあるべきものとなってほしい。

そして、悲惨な事故が少しでもなくなる様、心から願っている。

私が免許を取ったら、安全運転で、一番に祖父をドライブに連れて行ってあげよう。